

鳥獣被害防止緊急捕獲活動支援事業の評価報告(平成28年度報告)

- 被害防止計画の特徴等
ニホンジカ、ニホンザル、カワウ、イノシシ、タヌキ、ヌートリアを対象としており、侵入防止柵の設置等の取組を実施する。
また、捕獲については、平成24年度に設置した鳥獣被害対策実施隊による有害鳥獣捕獲を積極的に実施する。
- 事業効果の発現状況
銃器による捕獲に加え、農作物被害等が著しい地域においては、くくりわな、はこわなによる捕獲を併用し、イノシシやニホンジカの捕獲数が増加した。
また、狩猟免許取得を推進し、鳥獣被害対策実施隊員の確保に努めるとともに、捕獲体制及び捕獲機材の整備に取り組んだ。
- 被害防止計画の目標達成状況
ニホンジカ及びヌートリアの被害が軽減されているが、全体では未達となった。
- 各事業実施地区における被害防止計画の達成状況

事業実施主体名 (構成市町名)	対象地域	実施年度	対象鳥獣	事業内容	事業量	管理主体	供用開始	利用率・稼働率	事業効果	被害防止計画の目標と実績								事業実施主体の評価	第三者の意見									
										被害金額(万円)				被害面積(a)														
										現状値	目標値	実績値	達成率	現状値	目標値	実績値	達成率											
小豆島町	小豆島町 全域	平成27年度	ニホンジカ	緊急捕獲活動支援事業	—	—	—	—	狩猟免許取得者の増加により、捕獲数は増加しており、被害軽減に結びついている。	ニホンジカ 109.2	90.0	86.0	121%	760.0	620.0	560.0	143%	猟友会、関係団体等と連携し、被害防止対策を継続実施している。 狩猟免許取得者の増加により実施隊員も増加し、有害鳥獣捕獲頭数の増加が図られている。 しかしながら、捕獲数は増加しているものの、個体数の増加が著しいと思われ、被害が抑えられていないのが現状である。 このため、平成29年度において被害防止計画を改訂し、体制の強化を図るとともに、各種被害対策を継続実施している。	捕獲、環境管理、被害防除の対策に取り組んでおり、全体的な取組としては間違っていないことから、引き続き対策に取り組んでほしい。 ニホンザルとイノシシが効果が上がっていないことから、獣種ごとに捕獲、環境管理、被害防除のバランスを検討する必要がある。									
		平成27年度(補正)			—					ニホンザル 85.6	73.0	100.1	0%	553.0	470.0	559.0	0%											
		平成28年度			171頭					カワウ 22.0	20.0	22.0	0%	—	—	—	—											
		平成28年度(補正)			477頭					イノシシ 55.4	50.0	69.3	0%	237.0	210.0	383.0	0%											
		平成27年度	イノシシ		90頭					タヌキ 18.3	14.0	17.3	23%	185.0	100.0	175.0	12%											
		平成27年度(補正)			195頭					ヌートリア 3.6	3.0	2.0	267%	36.0	30.0	20.0	267%											
		平成28年度			224頭																							
		平成28年度(補正)			726頭																							
		平成27年度	ニホンザル		55頭																							
		平成27年度(補正)			74頭																							
		平成28年度			61頭																							
		平成28年度(補正)			100頭																							
																	294.1			250.0	296.7	0.0%	1,771.0	1,430.0	1,697.0	22%		